



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	医療法人社団 借翔会 静岡共立クリニック	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*	満点	取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0	/5			ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5			ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9	/5			がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.5	/5			がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点		3.0		
	<b>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</b> ①冬季24℃、夏季24℃ 確保 ①高性能複層ガラス U値3.0程度 ②トップライトの設置 ③ブラインド、庇によりグレアを制御 ④等級1相当 ④アルミ製 カーテンウォール 40年 ④クロス 20年 ④構造材を痛めることなほほ全ての空調配管の更新・修繕ができる。 ④構造部材、仕上材を痛めることなく修繕できるが、仕上材を痛めないと更新できない。	Q-1	2	2.1	2.2	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	<b>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</b> ⑤外構緑化指数が約10.09%を確保 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	<b>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</b> ⑦窓部において庇を採用。 ⑧トップライトの利用。 ⑨LED照明の採用。 ⑩各種エネルギー消費量を年間に渡って把握	LR-1	1			⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	<b>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</b> ⑪節水コマの取付 ⑪雨水利用システム導入なし⑪雑排水等利用システム導入なし ⑫主要構造躯体の鉄骨の基準強度400N/mm <sup>2</sup> ⑫既存躯体を再利用していない ⑫躯体材料にリサイクル材を利用していない⑫躯体材料以外にリサイクル材を利用していない ⑫持続可能な森林から算出された木材を利用していない ⑬内装材と設備が錯綜せず、解体・改修・更新の際に、容易にそれぞれを取り外すことができる ⑬接着剤に指定化学物質を含んでいない⑬不活性ガス消火剤を使用⑬ウレタンフォームを使用 ⑬代替フロン使用	LR-2	1	1.1		⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
<b>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</b> 内装には対象物質を含まない接着剤を使用	LR-3	1			⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点		3.0		
	<b>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</b> ⑯建築基準法に定められた耐震性を有する⑰吊配管とする。 ⑰節水対策 ⑰非常用発電機設置 ⑰水平震度1.0 ⑰ケーブルTV等により災害情報入手	Q-2	2	2.1	2.1	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>	得点		2.9		
	<b>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</b> ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。	Q-2	1	1.1	1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	<b>■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮)</b> ⑳市の木であるハナミズキを植栽	Q-3	3	3.1		⑳ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点		1.5		
	<b>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</b> ⑤外構緑化指数10%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出 ② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	<b>■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)</b> ⑮外構の全舗装面に透水性アスファルト舗装を採用した	LR-3	2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人社団 借翔会 静岡共立	階数	地上3F
建設地	静岡県静岡市駿河区曲金4丁目1-2	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	179 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年2月2日
敷地面積	4,262 m <sup>2</sup>	作成者	田中大智
建築面積	1,500 m <sup>2</sup>	確認日	2021年2月2日
延床面積	3,690 m <sup>2</sup>	確認者	田中大智



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項	
総合	周辺環境に配慮した外観デザインとした。
その他	0
Q1 室内環境	快適に業務が行える環境づくり、仕上材、空調、照度とした。
Q2 サービス性能	余裕ある空間づくりを行った。
Q3 室外環境 (敷地内)	植栽条件に応じた適切な緑化づくりに配慮した。
LR1 エネルギー	熱負荷抑制のため、外壁に発泡硬質ウレタンフォームを採用した。
LR2 資源・マテリアル	再利用資材を取り入れた。
LR3 敷地外環境	適切な駐車スペースを確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される